

かぞく百景 I

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp

心と体の性が一致しないトランスジェンダーや同性愛などのセクシュアルマイノリティー(性的少数者)である子どもの場合、学校生活は心身への負担が大きい。悩みを抱えて孤立し、いじめや不登校につながるケースもある。そんな現状を理解し、支援しようという動きが教育関係者の中で活発になってきた。

(新西ましほ)

「気付かないだけで、実際は学級に1人か2人はLGBTの子がいると考えるください」。2月に熊本市で開かれた九州地区の性教育研究大会。「多様なセクシュアリティーを持つ子どもへの支援を考えるを主題に、当事者を交えてのパネルディスカッションがあった。LGBTは、同性愛のレスビアンやゲイ、両性愛のバイセクシュアル、トランスジェンダーの英語の頭文字。こうした性的少数者の人口比は3〜5％程度とされる。思春期には、二次性徴による体の変化、男女別の制服やトイレ、恋愛感情の芽生えなどで性別への違和感が強くなったり、自己

性的マイノリティーの子理解を 教育関係者が取り組み

当事者交え議論 研究大会

否定感に陥ったりしがちだという。性同一性障害(GID)学会理事長で岡山大学病院・ジェンダークリニックの医師、中塚幹也さん(51)によると、GIDと診断された人の約9割が中学生までに

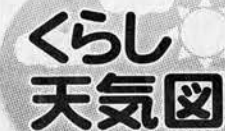
人に打ち明け、受け入れられたことで生きやすくなった。もし、LGBTについて学校で学ぶ機会があれば、もっと早く人生が動き始めたと思う」と話した。

動をせず、正しい知識を教えてほしいと呼び掛けた。福岡市人権教育研究会も取り組みを進めている。2011年度から機関誌「Access」で、3回にわたって特集「多様な性について」を組んだ。基本的な知識、当事者や親の体験、学校現場で望まれる対応などについて詳しく紹介。昨

性別違和を感じていたという。また、患者1452人の分析では、自殺しようと考えた人が58%、不登校経験者は30%に上った。中塚さんは「治療でひげや声変わりを抑えることもできる。医療機関につなぐ意味でも学校の役割は重要」とも述べた。友



セクシュアルマイノリティーの子どもの状況と学校の役割について語る中塚幹也さん



「多様な性」をテーマに特集した福岡市人権教育研究会の機関誌

性教育研究大会で話し合われた学校生活での対応をQ&Aでまとめてみた。

多様な生き方教えて 差別的発言はやめて

Q どうやって情報を伝えればいいのですか。
A 学級文庫にLGBTに関する本を置く▽新聞を使った学習の時間に他の記事と一緒にLGBT関連のものを紹介する▽象徴である
Q 悩んでいるのに言い出せない子への対応は？
A 知識がなければ自分
Q 健康診断や修学旅行
A LGBTでなくても、やけどがあるなど体を
Q 健康診断の時間や場所を
A LGBTでなくても、やけどがあるなど体を
Q 健康診断の時間や場所を
A LGBTでなくても、やけどがあるなど体を